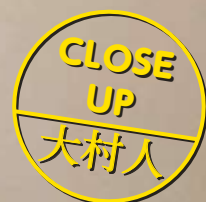


家族と共に、 夢を掴むために



「障がい者の皆さんもちよつとしたことでも前向きにとらえ、チャンスをつかんでほしい。」そう語るのは、右下肢に著しい障がいがある原口幸雄さん。障がいを抱えながら諫早市でスイミングスクールのコーチをしています。

3年前、実家の工場で作業中に、右足をかくはん機に巻き込まれ重傷。生死をさまよった末、「命を取り留めたものの、右足の感覚がほとんどなくなっていました」。

絶望の原口さんを救ったのは家族の存在でした。次男から「生きていてくれてありがとう。」と声をかけられ、「生きていることを実感したといえます。原口さんは「家族のために父親として強く生きていかなければ」と強く思い、再び泳ぎ始めました。「教え子や子どもたちに挑戦する姿を見せたい。」と、25年ぶりに現役復帰。指導のかたわら、東京パラリンピックを目標に練習に励んでいます。

初めて参加した障がい者の全国大会は、予選落ち。その悔しさをばねに、日本障がい者水泳選手権50歳自由形に出場し、大会新記録で見事優勝を飾りました。

「いろいろな人との出会いがここまで繋いでくれた。それは、障がいを抱えていても同じこと。」2020年には50歳になる原口さん。厳しい戦いも、「東京パラリンピックに家族を連れて行きたい。」という一心で乗り越えます。夢の実現に向けて、家族と共に前を向く原口さんは、力強く次の一步を踏み出します。

Sirius 諫早水泳学校事業代表

原口 幸雄さん



クローズ
アップ

大村人

vol.30

このコーナーは、ふるさとを思いながら、市内外で活躍する大村人、を紹介していきます。

Profile

はらぐち・ゆきお
日本体育協会公認上級コーチ、日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員として活躍。横浜でスイミングコーチを経て、大村に。諫早水泳学校を立ち上げる。
日本障がい者水泳選手権50歳自由形で大会新で優勝。2020年の東京パラリンピックを目指す。47歳。

